



平成30年度 水田活用の直接支払交付金

水田のフル活用を推進し、食料自給率・自給力の向上を図るため、水田で、麦、大豆、飼料用米等の戦略作物を生産・販売する農業者等に対して交付金が直接交付されます。

1 交付対象者

販売目的で対象作物を生産(耕作)する販売農家・集落営農

2 交付単価 (2回目配分の有無等により、増額又は減額調整する場合があります)

		作物等	単価(10a当たり)	
全国一律	戦略作物助成	麦(小麦,二条・六条大麦,はだか麦),大豆(黒大豆含む),飼料作物	35,000円	
		WCS用稲	80,000円	
		飼料用米,米粉用米(4ページ参照)	収量に応じ 55,000～105,000円	
		加工用米	20,000円	
県段階(産地交付金)	基礎助成	園芸作物 キャベツ,アスパラガス,ほうれんそう,ねぎ,わけぎ,トマト,こまつな,ちんげんさい,しゅんぎく,みずな,きく,ぶどう,いちじく,レモン ★1	12,000円程度	
		加工用米 指定品種の作付 (中生新千本,アキヒカリ,あきさかり,あきろまん,こいもみじ)	10,800円程度	
	加算措置	担い手	園芸作物(★1の作物)	9,600円程度
			戦略作物 ★2 加工用米は指定品種(中生新千本,アキヒカリ,あきさかり,あきろまん,こいもみじ)のみ ただし,★3の助成を受けている加工用米を除く	加工用米 9,200円程度 加工用米以外 4,400円程度
			麦・大豆・WCS用稲・飼料用米(★2に加えて支援) 【麦・大豆】 ①堆肥の散布による土づくりを行っている 【WCS用稲・飼料用米】 ①堆肥の散布による土づくりを行っている ②1ha以上の作付または,指定品種の作付(飼料用米:多収品種(中生新千本,ホウレイを含む),WCS用稲:たちすずか,たちあやか)	3,200円程度
		作付拡大取組支援(新たに規模拡大した水田への作物作付) ≪対象作物≫ 戦略作物,園芸作物(★1の作物)	6,000円程度	
		飼料用米,米粉用米の多収品種(中生新千本,ホウレイ含む)の取組	12,000円以内	
		加工用米の複数年契約(3年間)の取組 ★3 (継続分のみ:29年産以降の新規取組は対象外)	12,000円以内	
	追加措置(新規)	新市場開拓(内外の新市場の開拓を図る米穀の作付) (国内用主食用米・加工用米・備蓄米・飼料用米・米粉用米・醸造用玄米・種子用を除く)	20,000円以内	
		水田の畑地化(交付対象水田から除外すること) ①H29年度主食用米,戦略作物(そば,なたねを含む),産地交付金対象作物が作付された水田 ②H30年度以降,5年間は水稻を除く作物作付を行う(自家利用を含む) ③本交付金支払対象水田を含め概ね5ha以上の団地化	105,000円以内	
	地域段階	地域農業再生協議会単位で,「水田フル活用ビジョン」に基づき,地域振興作物,耕畜連携,二毛作の取組等に対して助成を行う場合があります。		

★30年産からの変更点

平成29年産まで、県段階で設定していた、耕畜連携助成、二毛作助成等については、要件確認が困難なことなどから定着していない取組や県設定以外の助成希望のある取組への対応が難しい状況にあったため、所要額を地域段階の助成へ配分しました。

各地域で単価、要件の設定が可能となるため、地域の状況に応じた助成をすることが可能となります。

情報提供：広島県農業再生協議会(事務局：県農業経営発展課)

平成31年度の復活を求めて県再生協にお願いを!! 耕畜連携、二毛作の削除に疑問!?



- ▼ 4月3日、組合員から、「従来、広島県内一律とされた「耕畜連携」や「二毛作」の取り組みにかかる産地交付金に関して、広島県農業再生協議会が平成30年度向けとして作成したパンフレットへの掲載から削除された一方で、同パンフレットの別のページに細かな文字で、「地域(市町)の農業再生協議会(以降、「再生協」)単位での「水田フル活用ビジョン」に基づき、地域振興農作物などに加算などを行う場合がある」とする表記に止まり、具体的には、耕畜連携等の交付金の取り扱いは、地域単位の再生協に委ねられていることは疑問である。
- ▼ また、昨年度までの耕畜連携の取り組みは、酪農家と耕種農家が連携し、地域での資源循環に取り組むものであり、これまで広島県農業再生協議会作成のパンフレットに記載があることによって、県下全域での取り組みが可能となっていたが、平成30年度では地域単位、つまり市町段階での産地交付金では、県下全域での取り組みが不可能となった。このことは、今後安定的な運営が不可能となることが懸念されることから、平成31年度では、再度県段階での産地交付金となるよう復活を求める」とする内容の意見が寄せられた。

- ▼ 4月5日、当組合は、広島県農業再生協議会の構成員にあらず、事情を聴くため広島県農林水産局農業発展課水田フル活用グループの担当者を訪問し、組合員からの意見に対する確認にあたった。
- ▼ 担当者からの説明では、産地交付金の目的は、主食米の生産調整にあり、平成30年度の取り扱いについては、県内の各市町で地域振興作物等((例)三次市の場合はアスパラガス等)の生産に力点を置くところに加算することが可能となるよう財源を振り分けたとして、耕畜連携や二毛作に対する交付金の取り扱いは、県内一律とはしていないが、地域農業再生協議会単位では、これら扱いが決定されている協議会もあるとあった。
- ▼ 当組合からは、平成31年度では県内一律の中に、耕畜連携、二毛作の復活を求め、なおかつ、当組合が広島県農業再生協議会の組織に加わり様々な協議に参加出来ないかを相談し、県の担当者レベルの判断からは、組織に加わることは可能であるとの答弁とともに、産地交付金は国から交付財源であり、この状況次第で来年度の対応も変わる可能性が示唆された。

○退職のお知らせ

ミルクファームHARU勤務の上間京子職員が平成30年3月31日付をもって、退職致しました。お世話になりました。

農林水産事業からのお知らせ - その105 -

広島県の酪農家の皆様へ

このコーナーでは日本政策金融公庫から、酪農家の皆様の経営に役立つ情報を提供して参ります

TOPIC 乳牛の雌選別精液を用いた人工授精の高受胎率農場における事例調査

公庫では、農業の最新技術を研究してきた「テクニカルアドバイザー」が、酪農や稲作など、各農業分野の最新技術を「技術の窓」としてまとめ、皆様にご紹介する活動も行っています。

乳用種の後継牛確保対策として国内外で広く活用されている雌選別精液の低受胎率の要因を分析し、受胎率の向上を図るために、大分県農林水産研究指導センターでは、県内の雌選別精液による受胎率が50%以上の農家11戸を対象に人工授精の実施状況の調査を行い、高受胎率を実現するための授精時期や注入位置等を明らかにするとともに、発情兆候が微弱な経産牛に対して授精時期を誘導するホルモン製剤を活用する定時授精プログラム方式の検証を行いましたので紹介します。

☆技術の概要

- 1 未経産牛では、繁殖供用開始月齢を経過した性周期の安定した15ヶ月齢以降の発情牛に、発情兆候確認後6～12時間以内に子宮角中部へ注入することで50%以上の受胎率が得られます。
- 2 経産牛では3歳までの分娩後100日以内の発情牛であれば子宮体注入でも40%以上の受胎率が得られます。
- 3 発情兆候の微弱な経産牛では、直腸検査により機能性黄体の存在する時期からCIDR-synch法（CIDR挿入時にGnRH投与、CIDR抜去時にPGF2 α 投与、抜去48時間後にGnRH投与、GnRH投与16時間後にAIを実施）、またはPGF2 α 単独投与方法（投与48時間後にGnRH投与、GnRH投与後16時間後にAIを実施）による定時授精プログラムを施し、授精を行うことで30～60%の受胎率が確保できます。



図1 乳牛の発情行動



図2 人工授精

表1 経産牛分娩後日数成績

分娩後日数	授精頭数	受胎頭数	受胎率
60日以内	2	1	50.0%
60-80日	8	3	37.5%
80-100日	4	2	50.0%
100日以上	11	0	0.0%
計	25	6	24.0%

受胎率: 受胎頭数 / 授精頭数

☆活用面での留意点

- 1 雌選別精液の子宮角深部への注入は、子宮角深部注入器具を用いて実施しますが、その際には、子宮内膜の損傷に注意を払い出血等が生じないように実施してください。
- 2 詳しくは、大分県農林水産研究指導センター畜産研究部・肉用牛繁殖・酪農チーム倉原貴美(Tel 0974-76-1219)にお問い合わせください。

(日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 加茂幹男)

※詳細については、農林水産省のホームページをご参照ください。

⇒ http://www.maff.go.jp/j/keiei/koukai/hito_nouchi.html

(株)日本政策金融公庫 広島支店 農林水産事業

所在地: 〒730-0031 広島市中区紙屋町1-2-22 広島トランヴェールビルディング6階

TEL:082-249-9152 FAX:082-249-9102

○相談窓口も以下の場所で開催しております。

三次相談窓口(5月は9日と23日)

場所:三次農業協同組合本店

庄原相談窓口(5月は10日と24日)

場所:庄原農業協同組合本店

福山相談窓口(5月は11日)

場所:日本政策金融公庫福山支店

※予約制で開催しております。ご来店の際は事前にご連絡をお願いいたします。

牛群検定から読み取る『カルシウム不足』

牛乳はカルシウムを豊富に含む健康食品の代表格ですが、乳用牛にとっては、逆に身体のカルシウム分が生乳中へとどんどん排出されていることを指します。この分を補わなければカルシウム不足による疾病を

引き起こす要因になってしまいます。今回は、カルシウム不足となった牛群の典型的な検定成績表を紹介します。

1 乳量

図1は「検定日乳量階層」で、検定成績表の1枚目で一番目立つ成績です。

カルシウム不足の牛は、ルーメン平滑筋の筋力低下から反芻運動も弱く食欲減退を起せば、一般的に乳量は伸びません。検定成績表でも平均20kg前後となることも珍しくありません。図例でも30kg以上を示す検定牛が4頭しかおらず、低泌乳量となっています。

図1の特徴的なところは、初産と2産以上の乳量推移にほとんど変化がないことがあげられます。カルシウム不足は、初産牛よりも2産、3産と産次が進んだ牛ほど影響が出やすくなります。

カルシウム代謝は、骨に一旦蓄積されてから利用されますが、前産次までの泌乳で蓄積されたカルシウムが枯渇してしまうことがカルシウム不足の主な原因と言われています。

その結果として2産以上の乳量が伸びず、初産とほとんど変わらないという図例のような事象が発生します。とりわけ前産次で高泌乳を記録した牛ほど、次産時でのカルシウム不足からのリスクが高まります。

図1

低乳量 30kg以上が4頭しかいません

検定日乳量階層	頭数	1 産						2 産 以上						
		MAX:26.6 DAY:68 MID:24.2 LP:94.3						MAX:32.4 DAY:37 MID:26.2 LP:89.6						
		21日以下	22日	50日	100日	200日	300日以上	21日以下	22日	50日	100日	200日	300日以上	
55以上														
50														
45														
40														
35	1						1							
30	3							1	1	1	1			
25	9				2					1	6			
20	14				2	2				6	2	2		
15	9		1			1				1	1	2		
15未満	3													1
頭数(頭)			1		4	3	5	1	1	2	14	3	5	
標準乳量			16.5		29.7	27.7	24.5	32.4	28.2	24.7	25.3	27.1	32.1	
平均乳量			18.4		25.9	21.1	14.5	36.0	34.6	31.2	24.9	20.5	19.1	

検定成績表1枚目の牛群成績の左下部に表示

2 繁殖

カルシウム不足となっている牛群は、筋力の低下から子宮の収縮が弱く、結果として分娩後の子宮の回復が遅れることから、発情回帰も遅れてしまいます。検定成績表では、分娩後の初回授精が遅く100日を越えることも珍しくありません。更に子宮内膜炎を併発した場合は、リピートブリーダとなることもあるので、獣医師による治療が必要です。

図2は初回授精が遅れている場合の典型的な成績表です。12頭中7頭は分娩後120日以上経っても未授精の状態です。これは分娩後の子宮回復が思わしくなく発情が微弱であったためと考えられます。過去1カ年を比率で見ると、実に半分以上の52%

が分娩後120日以上経っても未授精です。こうなると一過性のものでなく、飼養管理の根本に問題が潜んでいる可能性が高くなり、その原因のひとつと考えられるのがカルシウム不足です。

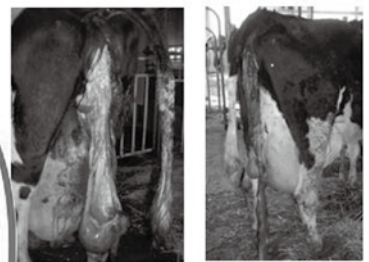
カルシウム不足の牛群は筋力が低下するので、筋肉組織である子宮回復に影響し、図2の写真のように後産停滞や子宮脱が増加する傾向にあります。

図2

初回授精の遅れ

授精報告	未経産	13 頭	77 %			
	経産	36 頭	75 %			
頭数分布	頭数	分娩後日数				
		59日以下	60~79日	80~99日	100~119日	120日以上
今月の未授精牛	12	3	1	1	7	
初回授精	前月 (%)					
	3ヵ月 (%)	9		3	3	
	過去1ヵ年 (%)	31	5	2	5	3
	(%)	16	6	16	10	52

胎盤停滞の症例



低カルシウムから胎盤停滞や子宮脱を発症する例もある。

検定成績表1枚目の牛群成績の右よりの下部に表示

(次月号に続く)

詳細は岡山種雄牛センター(電話 0868-57-2475)四宮、安積までお問い合わせください。